

☆作業日あれこれ

夏休みに入っても梅雨が明けていない年もあるのに、今年は定例作業日前日に梅雨明け宣言がされ、記録的な早さだそうです。梅雨明け後の9日の作業日は快晴、午後はお約束で活動開始記念のパーティ、作業は午前中のみです。天下御免でコミュニケーションを楽しむ日です。



台風で倒れた森のイヌザクラ

観察会は、今回も新人の登板です。森の2種類のガエルを前に、ガエル釣りは何でしましたかと質問です。大先生はルールの珠芽(ムコ)、炭焼名人はツボグサの花、クマはエノコグサの穂などと答えています。共通点は、長い軸の先の小指の爪程度の膨らみをガエルの顔の前でチチさせると食いついてくるのを釣り上げることです。この森にいるガエルは、トサマガエル、ツチガエル、アマガエルですが、ガエルやサンショウオなどの両生類の移動は難しいようでなかなか種類が増えません。トサマガエル(タルマガエルかも?)は、三平トビキが水田の生き物調査で捕まえたものがご先祖様だと考えています。一方、歓迎されないガエルもあり、食用ガエル(牛蛙)がそれです。森に流れが戻って間もなく例の鳴き声を下流の池で聞き、厄介者が住み着いたなど頭を抱えていたのですが、ある年の夏、ザリガニつかみ大会で大きなこいつを捕まえて得意面々の子どもの写真がホームページにアップされ、それ以降鳴き声を聞いていません。

この森の川は、かつては水が流れ琵琶湖とつながっていたのですが、その後枯渇し、森を整備するときに復元したものです。したがって整備当初は生き物がおらず、ガエルをはじめ水辺の生き物については当初に持ち込んだ経緯があります。飛んでくることが出来るトボなどは持ち込まずともやってきてくれましたが、カエルはなかなか来てくれませんでした。餌になるカエサも放していましたので、カエルは環境への負荷の点からも影響が少ないと考え数匹を移入して数年、今年は夜に飛ぶ姿が確認されました。しかし招かずとも森にすむカエルもい

ます。陸生のヒメボタルです。ただ、その幼虫が林床で光る様子は確認されているのですが、未だ成虫の光る姿は目撃されず森の課題のひとつです。ヒメボタルの成虫の雌には羽がないため自らの手で生息域を広げることが難しく、連綿としてこの森に生息してきたこのカエルを大事にしなければと考えています。

この日の作業は、細竹・クス



退治、下草の機械刈り、やまの子キャンプ焚付け用薪づくり、そしてお昼の用意です。

細竹・クス退治班は、長刀トビキや木鎌を手にかき、林から開始、周囲に草が生い茂り、むせかえるような気候の中、ひたすら草を刈り、クスのツルをたぐり…とたいへんな作業です。しかし暑い時期のこの作業は、森の保全には欠かせない大切な作業です。汗だくになりながらも作業を行いました。

下草の機械刈りはいつもですとヘムスロイド村御一行様中心の作業ですが、この日は欠席、マルとその他のベテラン勢で野鳥観察壁周辺の草を刈っていました。

焚付け作りは作業小屋の前のテント下でタで薪を細く割るのですが、昼食時にいつも「頂きます！」と唱和してくれる小学生のL君が、この日初めてタを使わせてもらい、大人に負けじと細割をしていました。

このところ発足記念の作業日のお昼は、焼き焼きパーティと決められております。真夏に各テーブルごとに炭火で焼くのは部屋に熱がこもって我慢大会だとの声もありますが、だからこそビールが美味しいと考えるのが正統派です。

天下御免の午後の延長戦には義理堅く途中参加の青年部長の姿もありましたが、陽のあるうちに家に届けられたクマには家人より「もっと遅いと思うてた。晩御飯用意してないよ。」とのお言葉がありました。

1998年の6月から活動を始めた遊林会は、無事に14年目の活動に入ることができました。今後ともよろしくお願ひします。

8月24日(水曜日) 週日活动 森の居酒屋は8月10日 午後7時頃～

8月13日(第2土曜日) 9時～(遅刻可)

主催者：遊林会

連絡先(遊林会事務局)：滋賀県 東近江市 河辺いきもの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL : <http://www.yurinkai.org/> E-mail : ikimono@e-omi.ne.jp 森のブログは「かわべえフォトログ」で検索!

27日の第4水曜日は曇り空、19人が参加です。7月20日に来襲した台風6号は、当地域では当日には大した被害を出さず、むしろ19日にかなりの風雨をもたらしました。18・19日は森の休館日だったので被害が気になっていたのですが、20日の朝、見回るとイモシジとヤギが1本ずつ根元から倒れるなどの被害がありました。しかし最大の被害は、胸高直径55cm、樹高18m はあるかというイザクラの大木が根元から倒れたことです。イザクラはサクラらしくない花をつけ、毎年咲くとは限らないという地味なサクラの仲間です。よく似たウミズサクラはこの森にたくさん生えていますが、イザクラは数本(丸は8本と考えている)しかありません。そのうちの、しかも最も大きな1本が倒れてしまったのです。今回の第4水曜の作業は、21日の木ままクラブの作業の続きでこのイザクラの処理を行いました。

それにしても大きな木で、三又に分かれた幹の1本が並みの木より太く、枝葉の量も半端じゃないので処理が大変です。21日に1時間半処理しましたが終わらず、この日も2時間半かけましたがまだ終わりません。年輪を数えようと思いますが、まだ根元の伐採にまでたどりつかず、高さ2m 以上の所で年輪を数えると70歳前後なので、これほど太い木なのに案外若い、つまり成長が速い木ということがわかりました。この作業の続きはまた今度行います。

お昼は相変わらず豪華。豚の冷しゃぶ、うたむ、麻婆茄子、獅子唐などの他、最後は懐かしいマクリまで出てきました。大いに汗をかき、おいしいものを頂いた作業日でした。

☆7月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。7月は2回の活動を行いました。

7/14 13人 竹林の近くで枯れていたコナラの高木など3本を伐採。コナラにはコナラ枯れを起こすカシガが入った形跡はあるものの幼虫の姿は確認できず、コナラ枯れで枯れたものではないようです。

7/21 12人 台風6号で倒れた木の処理をしました。イザクラ大木はこの日だけで処理しきれませんでした。

8月は18日が活動日です (7, 8月は半日)

☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

いよいよ夏休みが始まりました。スタッフは毎日開催するクイズラリーに加え、様々な夏休みイベント、やまの子キャンプ、毎週実施のモリイコ! と盛りだくさんの事業の準備に追われています。

今年、クイズラリーは7月末日で延べ98人! の子どもたちが参加しています。早くも「殿堂入り」する子も現れました。

夏休みのイベント受付は例年、電話による先着順でしたが、この方法は受付開始直後から電話

が鳴りやまず、何度電話しても一向につながらないというご意見も頂いていました。そこで今年から、一定期間中に電話とホームページで受け付け、当方で抽選後にホームページで発表という方法をとりました。大きな混乱もなく実施できましたが、今後一層改善していきます。

7月29日には最初のイベント「ザリガニつかみ大会」を行いました。外来種のアメリカザリガニの駆除を目的とした、毎年大人気のイベントです。今年も前日から川の水をポンプで汲み上げ、釣り竿を作りと準備に大忙しです。やってきた子どもたちは直接水の中に入ってつかんだり、スルメを餌に釣り竿で釣ったりと賑やかに楽しんでいました。今年の成果は約730匹です。昨年の1,260匹よりだいぶ少ないですが、これはザリガニの数が減ってきていると喜んでいいのかどうか…。

夏休みイベントの中でも大人気の「森の地蔵盆」は、8月24日(水)、遊林会第4水曜の活動日の夕刻17時より行います。こちらは子どもたちのためのアトラクションを屋台風にいろいろ行いますので、今年も応援よろしくお願ひします。

モリイコ! は各隊2回目の活動が終わりました。2回目はいきものつかみがテーマだったので、とてもテンションの高い活動となりました。手のひらいっぱいにはバツをつかまえたり、ひたすらカナヘビを追いかけたりと、思い思いのいきものをつかまえていました。いきものが苦手な子ども何度もチャレンジするうちにザリガニを持てるようになったり、初めて自力でトボをつかまえて触ってみたりと、だんだんできることが増え嬉しそうでした。モリイコ! の様子は7/24付けの中日新聞で大きく取り上げて頂き、今年度しか事業費がつかないこの事業はぜひ続けていってほしいという記者の思いも記していただきました。

☆連載「いきものの森と子どもたち」

地元の滋賀報知新聞で6/26より連載を始めた標記記事は、新聞の入らない地域の方にもご覧いただくと同社ホームページでも閲覧可能となりました。遊林会のホームページからもリンクしていますので、ぜひご覧ください。紙面では毎週土曜日掲載ですが、ホームページでは1週遅れで載るようです。ちなみに8月は紙面の都合により毎週掲載とは限りませんが、筆者の丸としては8/6に掲載予定の第6回目の記事『輝く4人』はぜひ読んで頂きたい内容ですので、よろしくお願ひします。

☆8月の作業は…

暑い時期ですので作業は午前中のみ。昼食は恒例の田中コックによる焼きそば等々の予定です。

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします!